2024年
（令和6年）
4月2日
（第三種郵便物認可
昭和23年4月15日）
毎月3回発行
（第1,第2,第3火曜日）

今号の特集

▷需要予測AI開発者インタビュー ⑥面
▷春夏向け商品施策特集 ⑧～⑭面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

日新蜂蜜株式会社

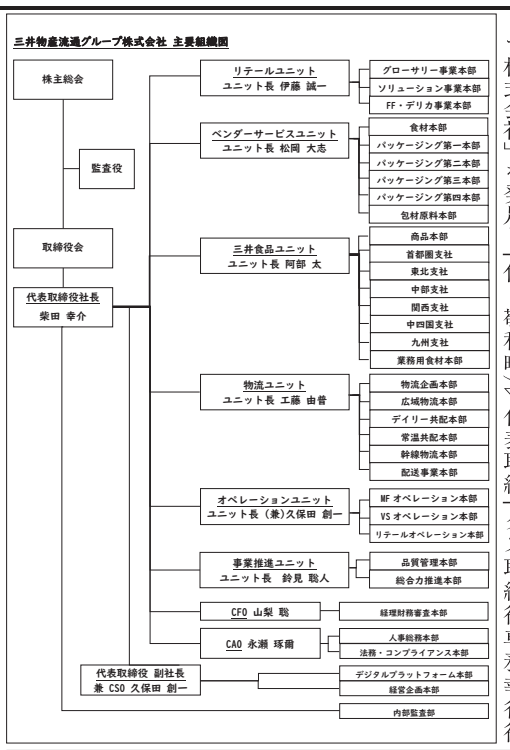
第3503号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電　話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電　話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞
大正から 食を伝えて100有余年

三井食品ほか
三井物産流通グループ(株)
5社合併、4月1日発足

三井物産グループは、完全持株会社の三井物産流通ホールディングス㈱とその完全子会社の事業会社の三井食品㈱、ベンダーサービス㈱、リテールシステムサービス㈱、物産ロジスティクスソリューションズ㈱の5社を、三井食品を存続会社として4月1日付で合併、「三井物産流通グループ株式会社」を発足した。株主は三井物産㈱が100％保有。従業員数は約2600人。新会社の代表取締役社長には柴田幸介氏（前三井食品代表取締役社長）、代表取締役副社長には久保田創一氏（前ベンダーサービス代表取締役社長）が就いた。本社所在地は東京都港区西新橋一丁目1番1号。

【主要人事】（4月1日付、敬称略）▽代表取締役社長・柴田幸介（前三井食品代表取締役社長）▽代表取締役副社長・久保田創一（前ベンダーサービス代表取締役社長）▽取締役・阿部太（前三井食品取締役専務執行役員）▽取締役・伊藤誠一（前リテールシステムサービス代表取締役社長）▽取締役・山梨聡（前三井物産流通ホールディングス取締役専務執行役員）▽取締役・永瀬琢爾（前三井物産流通事業本部リテール事業開発部長）▽取締役・工藤由普（前物産ロジスティクスソリューションズ代表取締役社長）▽取締役・松岡大志（前ベンダーサービス取締役副社長執行役員）▽取締役（非常勤）・浅海直治（三井物産執行役員流通事業本部長）▽取締役（非常勤）・向山潤（三井物産流通事業本部流通インフラ事業部長）▽監査役・剱弘幸（前三井物産流通ホールディングス監査役）▽監査役・荒木茂（前三井物産流通ホールディングス監査役）



カゴメ「野菜生活100」アンバサダーに緑黄色社会起用

カゴメは「野菜生活100」のアンバサダーにバンドの緑黄色社会を起用、新メッセージ「朝を味方に。」をテーマに3月17日から新CMを投下するなど活発なコミュニケーション施策を開始。3月14日には都内でアンバサダー就任発表会を開催した。

同社は野菜飲料や調味料、生鮮野菜などの商品や野菜摂取の啓蒙活動などを通じ、人々の野菜摂取に取り組んできた。日本の緑黄色野菜の消費量の18・5％、野菜消費量の4.9％をカゴメが供給しているとのデータもある。「野菜ジュースは野菜の量や種類をジュースと言う形で手軽に楽しめ、年間を通して旬が味わえ、リコピンやβ・カロテンなど重要な成分の吸収にも優れる。当社の『野菜生活100』は野菜をおいしく、もっと手軽に日常的な生活の中でとってほしいという想いから95年に発売。以後、各時代の消費者嗜好の変化やニーズの多様化にあわせ多様なラインナップで展開。幅広い世代の健康期待やシーンに応える当社を代表するブランドに育っている」（稲垣慶一執行役員マーケティング本部長）。

新メッセージ「朝を味方に。」は、忙しい日々で乱れがちな生活のリズムを朝の「野菜生活」で整える、あざやかな毎日を過ごすなどの意味を込めた。今回アンバサダーとなる緑黄色社会は、バンド名の由来が野菜ジュースであること、出身地がカゴメと同じ愛知県であること、さらに国民的バンドを目指し広い世代から愛される様子が「野菜生活100」のありたい姿とマッチしたことから起用。新CMでは、あざやかな野菜と果実が詰まった『野菜生活100』の魅力と、明るくエネルギッシュに音楽を奏でる同バンドの魅力をかけ合わせた。

日本コカ・コーラ新社長にオズゲル氏就任

日本コカ・コーラの新社長に4月1日付でムラット・オズゲル氏が就任。前社長のホルヘ・ガルドウニョ氏はザ コカ・コーラ カンパニーのチーフカスタマー&コマーシャルオフィサーに就いた。新社長のオズゲル氏はトルコ出身。ミドル・イースト工科大学で工業工学の博士号を取得。コカ・コーラ入社以前はプロクター&ギャンブルで複数の役職を務めた。03年にボトラーであるCoca-ColaIcecekでコカ・コーラシステムの一員としてスタート。ザ コカ・コーラ カンパニー所有のボトリングオペレーションを監督するボトリング・インベストメント・グループ（BIG）のプレジデントとして独立したボトリング業務のさらなる成長機会を引き出すため5カ国で再フランチャイズ化を率いた。またBIGのチーフ・グロース・オフィサーとして戦略的な合併と買収を通して組織をリード。さらにCoca-Cola Icecekの副会長としても活動し、Aujanや中東・北アフリカの他のボトリングオペレーションの取締役会メンバーも務める。

同氏は「新しい旅立ちの機会を大いに楽しみにしている。キャリアを通じて私はコラボレーションの力を強く信じ、その変革の可能性とローカルインサイトの重要性を認識してきた。尊敬、誠実さ、包括性を築くという私たちの共有価値への確固たるコミットメントを持ち、役割を全うしたい」とコメントした。

ポッカサッポロ「にっぽん烏龍」売上一部を屋久島の環境維持に

ポッカサッポロフード&ビバレッジは、「にっぽん烏龍」の23年売上の一部を公益社団法人屋久島環境文化財団に寄付した。

「にっぽん烏龍」は国産茶葉を100％使用し、そのうち20％は希少な〝屋久島産茶葉〟を使用した日本品質の烏龍茶。丁寧に茶葉を発酵させることで華やかな香りが楽しめるのが特徴。世界自然遺産登録30周年を迎えた屋久島の自然と共生する姿を知ってもらいたいという想いから、屋久島環境文化村センターのイメージキャラクター・まるりんを配すなどパッケージを刷新し好評を得た。

今回、屋久島の自然環境を維持するための活動に役立ててもらいたいとの想いから寄付を実施。3月12日には同社社員が鹿児島県庁を訪問し、約一〇九万円の寄付金贈呈などを行った。

5月18、19日に名古屋でタイフェスティバルを開催

タイフェスティバルin名古屋実行員会（三林憲司委員長／ヤマモリ内）は5月18、19日に名古屋市の久屋大通公園にて「タイフェスティバル in 名古屋2024」を開催する。

同イベントはタイ王国大使館が認定する公式なタイフェスティバルで、今回で17回目となる。来場者は年々増加し、昨年は約13万人もの来場があった。会場では「17th～推しタイ!!あなたの推しを見つけよう」をテーマに、約50店（予定）ものの屋台ブースによる本場タイの様々な料理やタイ産ビールなどの飲料や各種商品が楽しめる。料理以外では雑貨や衣類の物販ブース、タイ式リラクゼーションゾーン、タイの舞踊やムエタイなどのステージパフォーマンスなどタイの文化が楽しめるイベントとなる。

中部食知る辺

中部のおにぎりは？

おにぎりがブームだ。東京・大塚にあるおにぎり専門店「ぽんご」には数時間待ちの行列ができるという。コンビニチェーンのおにぎりフェアなども活発だ。日経平均株価がバブル時を抜いたというのに、高級フレンチなどでは無く何故おにぎり？と思うが、若者を中心に等身大、無理に背伸びしないことを是とする昨今のトレンドなら分から無くもない。

中部エリアで「おにぎり」の食べログ検索をすると、やはりというべきか、千寿を筆頭に天むすの有名店が上位に来る。前述のぽんごと似ている店も見られるが、数時間待ちの突出した店、チェーンはまだ無いようだ。インバウンド向け、海外展開等もアリかもしれない。外国人にとって赤の他人が素手で握るというハードルはどうなのだろうか。機会があれば調査したい。

RIKYU SESAME
利久胡麻®
食の楽しみを広げる調味ごま
素材の味を引き立てる、辛みと香り、旨味と食感をお楽しみください

株式会社　真誠（しんせい）　〒481-8526　愛知県北名古屋市片場新町29 | TEL(0568)23-3311　FAX(0568)22-4245 | 北海道・東北営業部／関東営業部／中部営業部／近畿営業部／中四国営業部／九州営業部／関ヶ原工場／名古屋工場／胡麻の郷